

令和7年度

南宇和郡小中学校

総合体育大会

新人総合体育大会

水泳競技大会

陸上競技大会

要項

南宇和郡学校体育会

- 1 期 日 南宇和郡中学校総合体育大会 令和7年5月31日(土)
 南宇和郡小学校水泳競技大会 令和7年7月23日(水)
 南宇和郡中学校新人総合体育大会 令和7年9月27日(土)
 南宇和郡小学校陸上競技大会 令和7年10月15日(水)
- 2 主 催 愛南町教育委員会・篠山小中学校組合教育委員会・南宇和郡学校体育会
- 3 会 場 南宇和郡愛南町内各小・中学校 その他
- 4 参加資格 南宇和郡学校体育会に所属している小・中学生

5 競技規定

- (1) 競技は、本年度の各競技協会・連盟の規則及び県大会要項に準じて行う。
- (2) 生徒の引率・競技監督は、各所属学校の校長・教員・部活動指導員・外部指導者であること。地域クラブ活動のチーム・引率・監督・コーチは、事前に愛媛県中学校体育連盟に登録された指導者とする。
- (3) マネージャーは、所属学校の生徒であること。
- (4) 楽器等の応援は一切認めない。
- (5) 表彰は、団体2位まで、個人は3位までとする。
- (6) 県総体・県新人大会出場有資格者(中学校)

陸上競技	全南予総体、全南予新人大会の規定に準ずる。
水泳競技	全南予総体の規定に準ずる。
バレーボール	男・女各1チーム(選手12名以内)
ソフトテニス	男・女団体各1チーム(4名以上8名以内)、男・女個人各4組
軟式野球	1チーム(選手20名以内)
卓 球	男・女団体各1チーム(選手4名以上8名以内) 男・女個人シングルス各4名、ダブルス各2ペア
サッカー	1チーム(選手18名以内)
剣 道	男・女団体各1チーム(男女とも正員5名、補員2名以内) 男・女個人各4名
相 撲	団体2チーム(正員3名、補員2名)、個人フリー ※ ただし、郡大会に出場していること

- (7) 県大会出場有資格者(小学校) (陸上競技 … 6ページ4を参照)
- (8) 1校のみ参加の場合
 団体戦 … 南宇和郡学校体育会で県大会出場について協議する。
 個人戦 … 順位決定戦を行う。
- (9) 郡総体で県総体への出場権を得た者(登録していた者)は、全南予総体に参加できない。ただし、県総体への参加登録は、期限内であれば変更することはできる。(個人種目は不可だが、ペアの場合は状況によって可)
 県新人大会への出場(登録)については、各競技の日程が重なっていなければ、複数の競技への出場(登録)が認められる。
- (10) 雷発生の危険性が高い場合は、直ちに試合を中断し、その後の処置については、大会本部で決定する。
- (11) 個人情報の取り扱いについては、次のとおりとする。大会主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、取得する個人情報について適正に取り扱う。また、主催者に認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映等により配信されることがある。大会に参加する各選手は、原則、これに同意すること。

外部指導者（コーチ）に関する規程

当該校長から、次の条件を満たした者を外部指導者（コーチ）として申請した場合は、愛媛県中学校体育連盟が主催及び主管とする各大会でのコーチを認める。

1 外部指導者（コーチ）の資格

- (1) 外部指導者（コーチ）とは、当該校長が人格・指導面において優れていると認めた成人であり、学校の教育方針に基づき、顧問教員の指導計画に従い、日頃から継続して指導にあたっている者である。また、技術指導だけにとらわれることなく、生徒指導面への配慮もできる者である。
- (2) 成人とは、20歳以上の社会人・学生とする。
- (3) 水泳（飛込のみ）・体操・新体操・卓球の4競技に限り、複数の学校における外部指導者（コーチ）として登録できる。ただし、複数の競技における外部指導者（コーチ）としては登録できない。
- (4) 当該校以外の中学校の校長・教職員（行政関係は除く）は、外部指導者（コーチ）としての資格を持たない。
- (5) 外部指導者（コーチ）のみで生徒の引率は認めない。

2 申請方法

- (1) 申請は、各大会の申込用紙の外部指導者（コーチ）の欄に必要事項を記入する。
- (2) 当該校長は、外部指導者（コーチ）証【資料参照】を作成する。

3 その他

- (1) 外部指導者（コーチ）は、大会期間中、外部指導者（コーチ）証を所持すること。外部指導者（コーチ）証を所持していない場合は、ベンチに入れない。
- (2) 外部指導者（コーチ）の身分については、当該校長が責任を負うものとする。
- (3) 規定違反や不適切な言動等があった場合は、不適格者として、会長又は競技専門部長から当該校長に連絡し、資格を取り消すことがある。
- (4) この規程以外については、各競技専門部及び大会要項の規程により処置する。

資 料

外 部 指 導 者（コーチ）証	
競技名 氏 名 上記の者を令和7年度外部指導者（コーチ）として認めます。 中学校 校長名 印	

小学校水泳競技大会の部

1 出場資格

- (1) 郡内の各小学校に在籍する児童で、各学校長が出場を認めた者。
- (2) 各校より、男女1種目3名以内、リレー種目は各校1チームのみの出場とする。ただし、25m自由形のみ6名以内とする。
- (3) 個人の参加種目数は、2種目以内、リレーは1種目までとする。リレーに出場する選手は、大会にエントリーしている選手でなくてはならない。

2 実施種目（男女共通）

個人11種目・団体2種目を男女別に行う。（各種目 女子→男子の順）

〈個人種目〉

自由形 100m, 50m, 25m (4年以下、フリー)
平泳ぎ 100m, 50m, 25m (4年以下)
背泳ぎ 50m, 25m (4年以下)
バタフライ 50m, 25m
個人メドレー 75m (背→平→自)

〈団体種目〉

150mメドレーリレー（背→平→自、各50m）
200mリレー（自由形、各50m）

3 競技方法及び注意事項

- (1) 競技は、2025年（公財）日本水泳連盟競泳競技規則、及び本大会規定により行う。
- (2) 競技はすべてタイムレースとする。同組の場合は着順優先とする。計時は100分の1秒を切り捨てとする。
- (3) リレーの第1泳者の記録は、正式記録として認める。ただし、県小体連への報告は一人個人2種目、リレー1種目の範囲で行う。
- (4) スタートは水中から行う。
- (5) スタートは1回のみとし、フォルススタートをした選手（チーム）は、競技終了後失格となる。記録は、参考記録として放送する。
- (6) 自分のコースを外れて他人のコースに入ったり、他の泳者の妨害をしたりした時は、失格となる。
- (7) 折り返しの時は、プールの端の壁に体の部分を接触させなければならない。
- (8) 競技中、水を飲んだり、疲れたりしてプールの底に立つことは認められているが、底を歩いたり、蹴ったりして競技を続けてはならない。また、コースロープを握ると違反となる。
- (9) 出場選手の変更は、開会式の10分前までに本部に申し出る。棄権する場合にも、あらかじめ本部に連絡すること。

- (10) 選手は開始予定時刻 10 分前までに招集所に集まり、点呼を受ける。
- (11) 単独でリレーチームが編成できない場合は、同一校での男女混合チーム及び近隣校との連合チームの出場を認める。出場規定と連合チーム出場の手続きについては以下のとおりとする。
- ア 出場規定
- (ア) 同一校での男女混合チームを優先する。
- (イ) 同一校での男女混合チームが編成できず出場を希望する学校は、同様の学校同士の連合チームを編成することができる。ただし、大会にエントリーしている選手でなくてはならない。
- (ウ) 同一校の男女混合チームも連合チームもオープン参加とし、表彰の対象とはならない。ただし、通信記録の標準記録を突破した場合は、記録賞を授与する。標準記録は男子のものを適用する。また、通信記録の 20 傑の対象にはならない。
- イ 連合チームの出場までの手続き
- (ア) 連合チームでの出場を希望する学校は理事会に申請書を提出する。
- (イ) 理事会で承認されれば、連合チームでの出場を認める。

4 表彰

- (1) 個人及び団体に 1 位～3 位までの賞状を授与する。
- (2) 新記録賞を設け、メダルと賞状を授与する。
- (3) 県標準記録到達者には、県小体連より記録賞を授与する。

小学校陸上競技大会の部

1 出場資格

- (1) 郡内の各小学校に在籍する3年生以上の児童。
- (2) トラック種目における各校の参加数は、2名以内とする。ただし、学年に学級が複数ある場合、その学年の60m・100mについては、3名まで出場することができる。リレーは、各校1チームとする。ただし、単独で男女1チームずつ編成できない場合は、同一校における混合チームの参加を認める。

フィールド種目における各校の参加数は、1名以内とする。ただし認定大会において県標準記録を突破した場合は、2名まで出場することができる。この場合、2名とも県標準記録を突破していなければならない。

- ※ 認定大会
- ・ 愛媛県スポーツ少年団陸上カーニバル
 - ・ 全国小学生陸上競技交流大会第1次選考会
 - ・ 全国小学生陸上競技交流大会最終選考会
 - ・ だるま夕日宿毛カップ小学生陸上競技大会
 - ・ 学体認定の合同記録会

- (3) 個人の参加種目数は、2種目以内とする。ただし、リレーはこの限りではない。

2 実施種目（男女共通）

60m（3～6年）、60mハードル、100m（3～6年）

400mリレー、走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ

3 競技方法及び注意事項

- (1) 競技は、2025年度（公財）日本陸上競技連盟の競技規則、愛媛県小学校陸上運動記録会規則及び本大会規定に準じて行う。
- (2) 出場選手の変更は、開会式の10分前までに本部に申し出る。棄権する場合にも、あらかじめ本部に連絡すること。
- (3) 選手は、トラック競技は開始予定時刻10分前、フィールド競技は20分前までに招集所（本部テント横）に集まり、点呼を受ける。
- (4) 2種目の競技が同じ時刻に重なる場合は、代理の者が招集所に集まり、そのむねを審判員に申し出、トラック競技を優先して行う。
- (5) 400mリレーは、400mトラックを使用する。400mトラックを使用する場合には、テイク・オーバーゾーンの距離を30mとする。
- (6) スタートの時に、同一児童が2回フライングをした場合は、失格とする。
- (7) 60mハードルは高さ60cm、ハードル5個、距離は12m、7m、7m、7m、7m、20mとする。
- (8) 走り幅跳びは、全員3回試技を行い、3回の試技の記録全体から順位を決定する。同記録があった場合には、次の記録によって順位を決定する。走り幅跳びの踏切り線は、砂場から2mとする。
- (9) ソフトボール投げは、全員3回試技を行い、最高記録を測定する。同記録があった場合には、次の記録によって順位を決定する。ソフトボール1号球を使用する。計測単位は0.01m（1cm）とし、0.01m未満の端数は切り捨てる。

- (10) 走り高跳びのバーの上げ方は次のとおりとする。

男子 1 0 4 1 0 9 1 1 4 1 1 9 1 2 2 以後 3 cm ずつ上げる
女子 1 0 0 1 0 5 1 1 0 1 1 5 1 1 8 //

ただし、男子については、128cmをクリアしたものが3名以上になった場合は、次のバーの高さを130cmとする。女子については、121cmをクリアしたものが3名以上になった場合は、次の高さを123cmとする。

競技者が1名になった場合は、選手の希望によってバーを上げる。

背面跳びは禁止する。はさみ跳びの場合は、マットへの着地は、足裏からとし、背・腰からの着地は、無効試技とする。

- (11) 児童は、学校名を記入したゼッケンを前後につける。ただし、前後に学校名がはっきりと見えるユニフォームを着用する場合は、ゼッケンをつけなくてもよい。

- (12) 運動靴を使用する。スパイクシューズの使用は認めない。ただし、はだしは認める。

- (13) スタートの仕方は、スタンディングスタート、クラウチングスタートのどちらでもよい。

- (14) フィールド種目の練習は、一人2回以内とする。

- (15) 単独でリレーチームが編成できない場合は、同一校での男女混合チーム及び近隣校との連合チームの出場を認める。出場規定と連合チーム出場の手続きについては以下の通りとする。

ア 出場規定

- (ア) 同一校での男女混合チームを優先する。

- (イ) 同一校での男女混合チームが編成できず出場を希望する学校は、同様の学校同士の連合チームを編成することができる。ただし、大会にエントリーしている選手でなくてはならない。

- (ウ) 同一校の男女混合チームも連合チームもオープン参加とし、表彰の対象とはならない。ただし、通信記録の標準記録を突破した場合は、記録賞を授与する。標準記録は男子のものを適用する。また、通信記録の20傑の対象にはならない。

イ 連合チームの出場までの手続き

- (ア) 連合チームでの出場を希望する学校は理事会に申請書を提出する。

- (イ) 理事会で承認されれば、連合チームでの出場を認める。

4 県小学校陸上運動記録会への出場資格

- (1) 60m、100mは、全学年を通して、決勝で最も記録の良かった者から2名が小学校陸上運動記録会に出場できる。同記録の場合は、高学年を優先する。他の種目についても、上位2名とする。ただし、決勝で県小学校陸上運動記録会参加標準記録を突破した者には出場資格を与える。

(県小学校陸上運動記録会参加標準記録)

	6 0 m	1 0 0 m	6 0 m H	走り幅跳び	走り高跳び	ソフトボール投げ
男 子	8 秒 7	13秒 8	9 秒 9	4 m 15	1 m 30	59m 51
女 子	9 秒 2	14秒 8	10秒 4	3 m 77	1 m 23	45m 17

- (2) リレーについては、上位2チームが県小学校陸上運動記録会に出場できる。
- (3) 出場種目は、一人1種目とする。ただし、リレーは他の種目と兼ねることができる。
- (4) 2種目にわたって出場資格が重複した場合（両種目で2位以内）は、上位の者から優先的に希望の種目を選択し、もう一方の種目については3位以下を繰り上げて出場資格を与える。
- (5) 走り高跳びにおいては、同順位が生じた場合、出場資格を得るための試技を行う。

5 表 彰

- (1) 個人及び団体に3位までの賞状を授与する。
- (2) 新記録賞を設け、メダルと賞状を授与する。
- (3) 県標準記録到達者には、県小体連より記録賞を授与する。

バレーボールの部

1 参加規定

各校 1 チーム

2 競技方法

リーグ戦

〈順位決定方法〉

リーグ戦形式では勝率によって順位を決定するが、この方法によって2つあるいはそれ以上のチームが同率となった場合は、下記の方法によって順位を決定する。

- ① セット率（取得したセットの総数を、喪失したセットの総数で割ったもの）が高いほど高順位とする。

$$\text{セット率} = \text{全試合の取得セット数} \div \text{全試合の喪失セット数}$$

- ② ①の計算によってもなお同順位となった場合はポイント率（全試合の総得点数を全試合の総失点数で割ったもの）が高いほど高順位とする。

$$\text{ポイント率} = \text{全試合の総得点数} \div \text{全試合の総失点数}$$

- ③ ②の計算によってもなお同順位が生じた場合は、次の方法をとる。

ア 2チームの場合は、相互試合の勝ちチームが上位とする。

イ 3チーム以上の場合は、順位決定戦を行う。

3 競技規定

- (1) 2025（公財）日本バレーボール協会制定6人制競技規則及び競技要項に準ずる。

※ リベロプレーヤーについては、一般と同様の「リベロプレイスメント」ルールで行う。

（取り扱いの詳細は県中体連ホームページに掲載）

- (2) 試合設定時刻は、試合開始時刻とする。

- (3) 予定開始時刻を過ぎたときは、原則、前の試合終了10分後にプロトコールを開始する。

※ 前試合がフルセットの場合は15分後

- (4) ライン・アップ・シートは、公式練習時に審判に提出する。

- (5) ベンチに入れるものは、選手12名以内と監督・コーチ・マネージャー各1名（マネージャーは生徒に限る）とする。監督・コーチは出場校（チーム）の校長・教員・部活動指導員・外部指導者、地域スポーツ団体等（地域のクラブ活動）の代表者であり、引率者としての責任を負う。コーチが外部指導者（コーチ）の場合は、当該校の校長が認めた者で、外部指導者（コーチ）証をつける。なお、地域スポーツ団体（地域クラブ活動）は該当しない。監督・コーチ・マネージャーは、必ず規定のマークを左胸部につけること。

- (6) 監督・コーチの服装は、統一されたものが望ましい。（短パン・ランニングは不可）

- (7) 登録選手及びチームスタッフの変更については、当該チームの第1試合プロトコール開始までに、所定の変更届を本部に提出すること。

- (8) ネットの高さは、2m15cmとする。

- (9) 人工皮革カラーボール（4号球）を使用する。（使用球については、県大会に準ずる。）

- (10) 公式練習は、毎試合ごとに行う。

- (11) 給水のためのタイムアウトを採用する。（取り扱いの詳細は県中体連ホームページに掲載）

ソフトテニスの部

1 参加規定

- (1) 団体戦 各校男女1チームとする(同一校・同一クラブの選手4名以上8名以内、監督1名とする。)
- (2) 個人戦 各校男女とも6ペアの出場を認める(同一校・同一クラブの選手2名と監督1名で構成する。)

2 競技方法

- (1) 団体戦、個人戦ともにトーナメント方式とし、試合は7ゲームマッチとする。ただし、出場チームが3校の場合のみ、リーグ戦とする。
- (2) 団体戦において、4名(2ペア)で出場する試合は、第1・2番対戦に出場し、第3対戦を不戦敗とする。
- (3) 団体戦終了後、個人戦を実施する。
- (4) ドローに関しては、本部に一任する。

3 競技規定

- (1) 現行の(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」および大会要項による。
- (2) 使用球は公認球(白色)とする。
- (3) ユニフォームは、上は半袖のスポーツシャツ(襟なし可)、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装(用具を含めて)の色等は華美にならないようにする。袖はまくらない。また、ユニフォームは文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。(学校指定の半袖・短パン体操服可)
- (4) サポーター・テーピング、アンダーシャツ、アンダータイツを使用する場合は、白・黒・ベージュの単色とする。メーカーロゴ等は認めるが、華美でないものとする。
- (5) ハチマキ、帽子、サンバイザーには、正面に特別な文字や記号を記入もしくは印刷し、使用してはいけない。
- (6) 監督・選手ともテニスシューズを着用する。
- (7) 背中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中の中央に付ける。ただし、四隅を止めることとする。すでにプリントされている文字は隠すようにつけるものとする。
 - (ア) ゼッケンはB5判横(白地)の大きさの布に都道府県名、学校名(地域クラブ活動名)、姓を記述する。都道府県名の「都府県」の文字は付けられないものとする。
 - (イ) ゼッケンの文字は、「漢字」、「ひらがな」、「カタカナ」を使用し、文字色は「黒」とする。シャツそのもののプリントは認めない。
 - (ウ) ゼッケンの文字の位置は下図のとおりとする。同一校・同一クラブに同じ姓の選手がいる場合は、名前の一部も付け加える。
 - (エ) 下記のように(公財)日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。

4 注意事項

- (1) オーダーは試合ごとに本部に提出する。
- (2) 個人戦の場合も監督・コーチ(教員・部活動指導員・外部指導者)はベンチに入ってもよい。個人戦に2ペア以上出場する学校の場合は、出場ペア数まで監督・コーチをおくことができる。コーチ(教員・部活動指導員・外部指導者)は、申込書に必ず明記しておくこと。
- (3) 監督・コーチは、スポーツウェア、テニスシューズを着用のこと。また、監督・コーチは、監督証・コーチ証をつけること。外部指導者は、中体連が定める外部指導者証も所持すること。
- (4) ベンチ外からのコーチは禁止する(イエローカードの提示の対象とする。)
- (5) 外部指導者がベンチに入る場合は、監督は必ずコート周辺に待機すること。
- (6) 地域クラブは、必ず日本スポーツ公認の「コーチ1」以上の資格を有する者が在籍しており、大会においてベンチ入りする者はその資格保有者であること(ただし、当該年度は取得中の者でも可とする)。

【選手ゼッケン】中学校

26 cm	愛媛	1 / 4
18 cm	清家	2 / 4
	城辺中	1 / 4

【選手ゼッケン】クラブ

26 cm	愛媛	1 / 4
18 cm	清家	2 / 4
	愛南クラブ	1 / 4

軟式野球の部

1 参加規定

- (1) 第 77 回愛媛県中学校総合体育大会競技別出場数規準による。
- (2) 各地区代表チーム。1 チームの編成は、監督（引率責任者）1 名、選手 20 名以内（スコアラーを含む。）とする。また、この他の教員を 2 名追加することができる。ただし、外部指導者（コーチ）が入る場合は 1 名とし、計 23 名以内とする。
- (3) 監督（引率責任者）は出場校の校長・教員・部活動指導員、外部指導者（コーチ）は出場校の校長が認めた者とする。

2 競技方法

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は 7 回戦とする。勝敗が決しない場合は特別延長戦を行う。
- (2) 5 回以降 7 点差でコールドゲームを適用する。
- (3) 背番号は、監督は 30 番とする。コーチは 29 番、28 番を付ける。選手は 1 から 20 番とし、原則としてポジション順とする。

3 当該年度公認野球規則、競技者必携及び大会特別規定による。

一週間の投球数が 350 球以内は適用しない。ピッチクロックを適用する。なお、また、指名打者制度は適用しない。

大会特別規定

【試合開始前】

- 1 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻 60 分前までに到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- 2 第 1 試合のメンバー用紙交換および攻守決定は、試合開始予定時刻 40 分前とする。第 2 試合以降は前試合の 4 回終了時とする。各チームの監督と主将は、所定のメンバー表 5 部を持って、本部 1 名とで打ち合わせをする。
- 3 ベンチは抽選番号の若い方を 1 塁側とする。
- 4 試合前のグラウンドでのハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティングまでとする。
- 5 シートノックについては以下の通りとする。
 - ① 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - ② 後攻のチームが先に行い、時間は 5 分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - ③ 監督・コーチ・登録選手の他に、3 名の補助員（当該チーム選手）をつけて行うことができる。
 - ④ ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用する。
 - ⑤ 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習と終了 2 分前通告後の先攻チームのベンチ前でのキャッチボールや準備運動は認める。
 - ⑥ マウンドは使用しない。
 - ⑦ シートノックをしないチームは、攻守決定時に本部に伝える。
- 6 バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判の確認に応じなければならない。

【試合中】

- 7 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合は、翌日の第 1 試合に先立って特別継続試合を行う。その際、投手の投球数も継続する。競技者必携記載の「暗黒、降雨などで 7 回までイニングが進まなくとも 5 回を終了すればゲームは成立する」は適用しない。
- 8 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
- 9 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い選手が球を投手板近くに置くこと。
- 10 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。
- 11 投手の準備投球は、初回と投手交代のときは 7 球以内とするが、2 回以降は 3 球とする。（審判が状況を考慮する。）また、捕手、予備捕手は安全のため、座って捕球する場合は、レガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガードを着用しマスクをかぶる。
- 12 メガホンの使用は、監督のみとする。また、電子機器類の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
- 13 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。
- 14 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問することができる。
- 15 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意をし、球を投手に戻させる。
- 16 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判団が必要と認めた場合はこれを許可する。臨時代走は、投手を除く打者前位の者とする。
- 17 試合進行上、打者席を外すなど、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心掛ける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。
- 18 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。

19 危険防止のために次のことを徹底する。

- ① 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトにする。
- ② 捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップと打者と走者及びシートノック時にノッカーにボールを渡す生徒の両耳付きヘルメットを着用すること。ベースコーチとバットボーイは危険防止のためにヘルメットを着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
- ③ ネクストバッターは、プレイ中の投球に合わせてスイングをしない。

20 「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。

【規則適用上の解釈】

中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

21 交代して一度退いた選手はウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。

22 タイムに関しては公認野球規則による。

23 塁上の走者、およびコーチボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。

24 勝敗が決着しない場合は、次のような特別延長戦を行う。

＜特別延長戦＞

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死1・2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合はさらに継続打順でこれを繰り返す。なお規則によって認められる選手の交代は許される。

25 熱中症予防のため、3回と5回終了時に3分間の給水タイムを設ける。なお、暑さ指数(WBGT)が31℃に達すると予想される場合については、2回、4回、6回裏終了時に給水タイムを設ける。また、守備時間が長引いた場合、イニングの途中でであっても給水タイムを設ける(20分を目安として本部が判断し、打者のプレイ完了後に給水タイムを設ける。)

26 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの監督が責任をもって指導すること。

- ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
- ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招いたりするような応援をしない。(特に相手投手が投球動作に入った場合については過度な声援はやめる。)
- ③ 応援席周辺を散らかさない。ごみは持ち帰る。
- ④ 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害したりするような応援はしない。
- ⑤ 試合の判定に対しての意義は、映像があったとしても受け付けない。

【試合後】

27 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんで全て完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。

28 各チームの監督は、球場を去る前(試合終了30分以内)に大会本部に連絡をし、次の日程などを確認する。

【その他】

29 ベンチに入る教員は平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツおよび選手と同一の野球帽子)または、選手と同一のユニフォームとする。また、コーチを兼ねる場合には、選手と同一のユニフォームを着用し背番号は付ける。ただし、女性の場合は考慮する。(サングラスは使用しない)

30 監督・外部指導者(コーチ)は選手と同一のユニフォームを着用する。(サングラスは使用しない。)

31 選手のテーピングは肌色に近い色のものを用い、投手は投球に影響の与えるものは使用できない。

32 選手の頭髮や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしくマナーについては十分に考慮する。

33 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。

4 使用球及び使用器具

(1) 使用球は、(公財)日本中学校体育連盟公認球M号球(ナガセケンコー)とする。

(2) その他の使用器具は、(公財)全日本軟式野球連盟公認のものとする。

(3) マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。

(4) 試合前(打順表提出時)に申し出て許可を得た場合に使用できるもの

- ① 医療目的でのサポーター(手首や指を固定、保護する目的のもの)の使用は認める。ただし、色は白・黒・ベージュの一色のものとする。
- ② 健康上の理由及び球場の条件によってサングラスの使用を認める。メガネ枠は黒、紺またはグレーとし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。ガラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。また、著しく反射するサングラスは使用しない。

(5) ロジンは各チームで準備する。

卓 球 の 部

1 参加規定

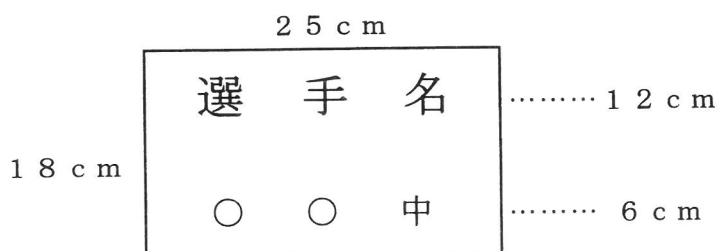
- (1) 団体戦 同一校の選手6名以上8名以内（ただし新人大会は、4名以上8名以内）、監督1名をもって編成登録する。なお、監督の他にコーチとして、出場校の教職員（部活動指導員含む）もしくは校長の承認を得た外部指導者どちらか1名のベンチ入りを認める。
- (2) 個人戦 シングルスは各校6名以内、ダブルスは各校3ペア以内とする。ただし、シングルスとダブルスは、兼ねることができない。なお、アドバイザーとして、1名のベンチ入りを認める。ただし、監督または、当該校の教職員（部活動指導員含む）、校長の承認を得た外部指導者、生徒のいずれかとする。

2 競技方法

- (1) 組み合わせ ・団体戦 リーグ戦
・個人戦 トーナメント戦（シングルス・ダブルス）
＊ ただし、エントリー数によっては変更する場合がある。その場合は、各校監督と協議の上、決定する。
- (2) 団体戦は、3番にダブルスをおく4単1複で、3点先取法（公式記録）とする。シングルス、ダブルスに重複して出場できない。ただし、各チームの最初の試合は、勝敗に関係なく5番まで行う。

3 競技規定

- (1) 現行の（公財）日本卓球協会が制定したルールによる。
- (2) 大会使用球は40mmの（公財）日本卓球協会公認ホワイト球（プラスチック）とする。
- (3) 出場選手は、下図のように白布に選手名（姓）と学校名を記入したゼッケンを背面中央部に必ず付けて出場する。なお、同姓の場合は名を1字だけ加える。ゼッケンは、（公財）日本卓球協会交付のものでもよい。



サッカーの部

1 参加規定

各校（クラブ）1チーム【1チームは、引率者1名・監督1名・コーチ1名（すべて監督が兼ねることができる）・選手18名の計21名以内とする。】

2 競技方法

(1) ノックアウト方式またはリーグ戦方式とする。（参加チーム数による。）

(2) 試合時間は、60分（30分ハーフ）とする。

① ノックアウト方式で勝敗が決しないときは、10分間（5分ハーフ）延長し、なお決しないときは再度10分間（5分ハーフ）の延長をする。それでもなお決しないときはPK方式により勝敗を決定する。

② リーグ戦方式で勝敗が決しないときは、延長戦やPK方式を行わず、2の(3)のとおりとする。

(3) リーグ戦の順位決定方法は、以下の順で決定する。

① 勝ち点が多いチーム（勝ち3点、引き分け1点、負け0点）

② 得失点差が大きいチーム

③ 総得点が多いチーム

④ 再試合（翌日）で勝ったチーム

※ 2チームの場合：同点の場合→延長戦（10分）→延長戦（10分）→PK方式

3チームの場合：①→②→③→PK方式の順で決定する。

(4) 酷暑対策として、飲水タイムもしくはクーリングブレイクを設けることがある。ただし、その決定は大会競技委員会で行うものとする。

3 競技規定

(1) 2025年度（公財）日本サッカー協会の「サッカー競技規則」による。

(2) 選手登録は18名とし、大会参加申込書に登録した選手全員の中から交代が認められる。一度退いた競技者は、出場できない。交代の手続きは従来通りサッカー競技規則第3条に則って行う。

(3) 使用球は、公認球（5号）とし、競技規則第2条に適合するものとする。

(4) 本大会において退場を命じられた選手は、次の1試合に出場できず、違反行為の内容によっては、大会の規律委員会（または競技委員会等で規律委員会に代わるもの）で、それ以降の処置について決定する。

(5) 本大会期間中、警告を2回受けた選手は、次の1試合に出場できない。

4 注意事項

(1) ユニフォームは、必ず1着以上を持参すること。（2着以上が望ましい。）背番号は、1番から99番までとする。

(2) 審判員と同一または類似色のみユニフォームのシャツを用いることはできない。ゴールキーパーについても同様である。

(3) 雷発生の危険性が高い場合は、直ちに試合を中断し、その後の処置については大会本部で決定する。

剣道の部

1 参加規定

- (1) 学校対抗 1校1チーム 正員5名 補員2名 (男女共)
 (2) 個人戦 制限無し

2 試合方法及び規定

- (1) 「全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則及び細則」、「令和7年度(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部 審判員共通認識事項」に準じて行う。
- (2) 団体戦は対抗戦とし、個人戦はトーナメント戦及びリーグ戦とする。
- (3) 試合時間は団体戦、個人戦ともに3分間3本勝負とする。時間内に勝敗が決しない場合は、団体戦は引き分け。個人戦は勝敗の決するまで2分ごとの延長戦を行う。長引く場合は小休止や水分補給の時間を設ける。
- (4) 団体戦の勝敗は勝者数、取得本数の順で決定する。決勝戦においては、3分間で勝敗が決しない場合、2分間の延長戦を1回行う。延長戦で勝敗が決しない場合は引き分けとする。ただし、団体戦の勝敗が決した時は、それ以後の試合の延長戦は行わない。すべて同数の場合は、任意の代表者による代表戦を勝敗の決するまで行う。(3分間一本勝負、時間内に勝敗が決しない場合は、勝敗の決するまで2分ごとの延長戦を行う。)
- (5) 個人戦がリーグ戦になった場合の順位は勝ち点法(勝ち3点 引き分け0.5点 負け0点)によって決定する。同じ勝ち点の場合は勝ち数、取得本数の順で決定する。すべて同数の場合は、順位決定戦を勝敗の決するまで行う。(3分間一本勝負、時間内に勝敗が決しない場合は、勝敗の決するまで2分ごとの延長戦を行う。)
- (6) 選手は試合および練習において「面マスク」もしくは、面内に装着する「シールド」いずれかの着用を必須とする。
- (7) 竹刀の長さは、男女とも114cm以下とし、竹刀の先端部は男子直径25mm以上、女子24mm以上でなければならない。また、先革の長さは50mm以上とし、ちくとう最小直径男子20mm以上、女子19mm以上とする。重さは、男子440g、女子400g(つばなしの重さ)とする。アイガード、ポリカーボネート面及び化学繊維竹刀の使用は認める。使用竹刀の弦の色は白・黄・紫のみとする。
- (8) 正員に事故のあった時のみ、補員を事故のあった位置に入れる。
- (9) 補員として申込みのない者は、選手の位置に入れることはできない。
- (10) オーダーはオーダー表の提出時に決定し、その後の変更を認めない。
- (11) 団体戦では、一度選手を去った者は再び選手として出場できない。
- (12) 服装は、剣道着及び袴を着用し、垂の前に学校名『～中』(横)姓(縦)が記入してある黒または紺色の布地の名札を着用する。剣道着袖口に、学校名以外の名前の刺繍の入っている剣道着の着用は認めない。(関係のないワッペン等の着用も認めない。)
- (13) 選手席に入る者は、登録選手、監督、部活動指導員、外部指導者とする。
- (14) 上段の構えはとらせない。隻腕についてはその都度協議する。
- (15) 団体戦は3名以上で出場可。3名の場合は、先・中・大、4名の場合は、先・中・副・大とする。
- (16) サポーター等(足袋、テーピング、コルセットを含む)の使用については、医療上必要と認められた場合に限り使用を認める。使用する場合は、試合場審判主任に届け出た上で使用する。サポーターなどは、肘、膝などに着ける物を足に着けたり、ゴムや革及び滑り止めが底に貼った物等を使用したりすることは禁止する。(相手に危害を与える、公正さを欠く、という観点から。)指先単独でのテーピングの届け出は不要。届け出と違う物を使用した場合は替えさせる。

【オーダー表のサイズ】

- (17) 面紐の長さは、結び目より40cm以内とする。

13 13 13 13 13 13(cm)

3 注意事項

- (1) 各校・各自、紅白の目印を持参する。
 (2) 団体戦出場校はオーダー表を持参し、当日の朝受付に提出すること。

21 (cm)	学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将
------------	-------------	--------	--------	--------	--------	--------

相 撲 の 部

1 参加規定

- (1) 団体 各学校 1 チーム (正員 3 名、補員 2 名以内とする。)
- (2) 個人 フリーエントリー

2 競技方法

(1) 団体の部

リーグ戦方式により順位を決定する。勝数及び得点がともに同数で順位を決定できない場合は、決定戦を行う。

(2) 個人の部

【総体】

4 ブロックの予選リーグ戦を行い、優秀 8 選手を選出後トーナメント戦を行う。

【新人総体】

- ・ 軽量級(60 kg 未満)、中量級(75 kg 未満)、重量級(75 kg 以上)の体重別を行う。体重別については予選リーグを行った後、決勝トーナメントを行う。
- ・ 無差別級についてはトーナメント方式で行う。(体重別に出場した選手も出場可)

3 競技規定

- (1) 日本相撲連盟競技会規定・審判規定・審判規定補足による。

- (2) 禁じ技
 - ① 合掌 (相手の背後に手を回して組む)
 - ② 鴨の入れ首 ③ 首を脇の下に入れる
 - ④ さば折り ⑤ 河津掛け
 - ⑥ 反り技 ⑦ 極め出し
 - ⑧ 極め倒し

以上の技を禁手(技)に加え、反則した場合は取り直しとし、再度した場合は反則負けとする。

- (3) 交代 補員が出場する場合は、本部の承認を要し、団体戦に限り前選手の位置を継承する。但し、一度退いた選手は、再び出場することはできない。
- (4) 立合 立合の流れが以下のように行う。
 - ① 主審の「構えて」「両手を同時について」の掛声に従い、両手を同時について静止する。
 - ② 主審が静止状態を確認し、「引きますよ」と声をかける。
 - ③ 「ハッケヨイ」の掛声で立ち合う。
- (5) 服装
 - ① まわし及びアンダーパンツ以外を身に付けてはならない。
 - ② 学校名を標記されたゼッケン等をまわしの前に付ける。

4 注意事項

- (1) サイドコーチと認められるものは禁止する。
- (2) 手足の爪を短くすること等、身体を清潔にすること。
- (3) 監督は「監督証」、コーチは「コーチ証」を必ず所持すること。

